

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
グローバル展開プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

課題		グローバル人文学：日本文学・芸術・思想の普遍性の探求			
研究テーマ名		絵ものがたりメディア文化遺産の普遍的価値の国際共同研究による探求と発信			
研究代表者	所属機関	名古屋大学			
	部局	高等研究院			
	役職	客員教授	氏名	阿部泰郎	
委託研究費		単位：千円			
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和1年度		
6,341	7,406	4,711	4,914		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

日本が世界に誇る文化の所産としての絵巻や絵本は、国内のみならず海外にも多く所蔵される。本研究の目的は、①絵伝など説話画を含め、絵を物語る絵解きによりその世界を伝達伝承する行為までを「絵ものがたり」メディア文化遺産として総合的にとらえること、②そのイメージの達成と背景となる歴史文化の文脈を探求することで、その普遍的な価値と意義を解明することにある。

この趣旨に基づく具体的な研究内容として、特に以下の3点を実施した。①文学と美術史をはじめ人文諸学を結集し、海外の美術文学研究者と所蔵機関学芸員との国際共同研究により、探査した作品の資料や研究成果を共有しつつ、最新の成果を共同で国際発信した。②この過程で、市民学生に日本の図像メディアと文字のリテラシーを普及向上させ、研究教育に携わる若手研究者の飛躍の機会とした。③社会的には、絵解きなど民衆伝承文化の保存と創造的継承の試みを通じた国際的な文化発信を、国際ワークショップやセミナー、フォーラムなど多彩なプログラムによって実施した。

その結果、本事業により、海外所蔵の絵巻絵本について、チェスタービーティーライブラリーの「舞の本」絵巻をはじめとする物語絵の調査研究が大きく進展し、この成果を受けて、国内所在の作品を網羅した海の見える杜美術館の展覧会が開催され、図録も刊行されて、海外所在の関連作品への関心が更に高まった。更に、フリーア美術館の国際共同研究ワークショップが実現し、主要な所蔵絵巻について共著で英文論集図録が出版されることになった。刊行された暁には、日本の研究水準を世界に示す成果発信となる。フランスでも欧州所在の物語絵を集めた展覧会が企画され、実現すれば本事業に大きく貢献できる。基盤的研究では、『看聞日記』美術記事翻訳の国際共同研究も大きく進展し全体の4分の3が完成している。作品研究では、『児今参り』絵巻の国際連携による成果として一般向け解説書を公刊した。聖徳太子絵伝、融通念仏縁起絵巻等のデジタル画像化とその複製製作は20点を超え、国際（中・仏・米）絵解きワークショップと国内の絵解きフォーラムを計8回開催し、画像データによる高度デジタルコンテンツと絵伝研究の成果を披露すると共に、伝承者による絵解き公演などを通して、文化創造の源泉としての「絵ものがたり」の力を社会に再認識せしめた。発表論文は44本、刊行された編図書、図録は25点を数え、学界報告、講演は91本を超え、高度な水準の学術成果と国際社会への発信を達成している。